

## 技術コンテスト第4回 開催報告

令和7年11月18日（火）から12月4日（木）まで、技術委員会（委員長：富安寛（株）NTTデータグループ常務執行役）主催の技術コンテスト第4回が開催され、令和8年1月14日にJJK会館で評価・表彰式が行われた。本コンテストは、会員企業の若手エンジニアを対象に、楽しく総合的な技術の研鑽ができる場を提供し、学びにつなげることを目的とし、156名（28社33チーム）が参加した。

本コンテストは、「参加者が実際に社会課題の1つと向き合い、当事者意識を高める。一連の技術を体感し、今後のデジタル社会やIT政策をけん引できる人材を育成する。」というコンセプト「レジリエンスと開發生産性の向上」というテーマに基づき、今年は目玉として「AI エージェント」を取り上げ「カオスエンジニアリング」「AI エージェント」「データ分析の優秀さ」「技術課題の達成度」を評価基準として、クラウド上に事前に準備された技術課題を解決しつつ、コンテスト期間中の障害発生対応等、各チーム約2週間の短期間でソリューションをまとめる内容とした。

各チームの成果物について、9つの技術テーマ（クラウド、ミドルウェア、セキュリティ、アプリケーション、DevOps、データ分析、アルゴリズム、カオスエンジニアリング、AI エージェント）から合計29の課題で評価した。また、コンテスト評価・表彰式では、3つの部門賞（データ分析優秀賞、カオスエンジニアリング特別賞、AI エージェント特別賞）と総合優秀賞第3位、第2位、第1位を表彰した。それぞれ受賞チームは以下の通り。

- ・総合優秀賞 第1位 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 様 (T11-ctc)  
第2位 株式会社野村総合研究所 様 (T15-nri)、  
株式会社 CAC Holdings 様 (T06-cac1)
- ・データ分析優秀賞 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 様 (T11-ctc)
- ・カオスエンジニアリング特別賞 SCSK 株式会社 様 (T27-scsk2)
- ・AI エージェント特別賞  
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 様 (T11-ctc)

今回の参加チームには、9つの技術テーマに対する獲得スコアをレーダーチャートで示し、また要素ごとに具体的な評価内容をコメントした評価シートを配付した。今後、各チーム内でフィードバックの参考として活用いただきたい。

## 審査コメント（技術コンテスト実行委員会 長谷川プログラム委員長）

第4回技術コンテストにご参加いただきありがとうございました。第4回は総勢156名と過去最高の参加人数となり、初日から参加者の皆さまの真剣な取り組みが随所に見られました。

今回、特に大きな変化として感じられたのがAIの急速な普及・拡大です。昨年度は、システム開発にAIを導入している参加者は数名にとどまっていたましたが、今回の技術コンテストでは、約9割の方が課題解決に活用をしており、時代の変化を強く実感しました。コンテストではAIエージェントの構築を新規テーマとして取り入れたことで、より実践的にシステム開発へAIを導入していくプロセスを体験してもらえたと思います。全体の平均点も上がっており、AI活用により全チームで課題解決のスキルが向上したことが確認できました。

技術コンテストの企画・開発・運営を通じて、改めて以下の点でスキルアップに向けて非常に有効であると実感しました。

- ・ **学習のモチベーション維持**：競争型イベントであるため、上位を目指す競争意識が高い集中力とモチベーションを引き出した。

- ・ **最新技術のキャッチアップ**：本コンテストでは最新の技術トレンドを反映した課題を設定しており、実践を通じて最新技術に触れてもらうことができた。

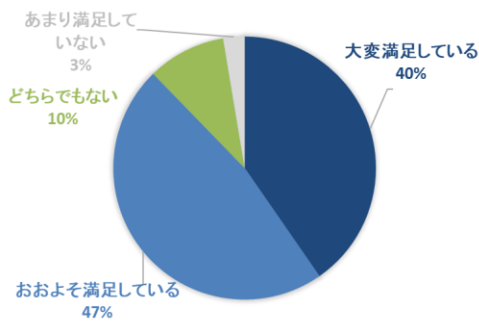
- ・ **チームでの学び合い**：チームで協力しながら課題に取り組んでおり、分からない点をお互いに教え合いながら効果的に学んでいる様子が見えた。

技術コンテストに参加された皆さまは、新しい技術に触れ、他メンバーからも刺激を多く受けられたと思いますので、この経験をぜひ今後の技術者としてのキャリアアップにつなげていってください。

## 技術コンテスト第4回 評価・表彰式



## 【参加者の声】



「大変満足している」「おおよそ満足している」の回答が 87%を占め、総じて参加者の満足度の高いコンテストとなった。

### 全体

- モダンな開発に必要な技術が学べた。得た知識が実践的かつ即効性のあるものだった。
- チームで知見を共有したり、技術調査をする良い機会になった。
- チームごとに QA 用チャットを設けていただいたおかげで、質問しやすい環境で作業に取り組めた。

### カオスエンジニアリングについて

- エラー内容と構成図を見ながら原因を特定していく経験は学びになった。

- 他分野課題に関連して知識や解決手順が必要であったため自分一人ではどうにかできないという難しさを感じました。
- 課題としては手ごたえのあるものでしたが、作業がトラブルシューティングに終始してしまったので、高度課題においてもカオスエンジニアリングの実践が活きる課題になるとよかったです。

### AI エージェントについて

- 業務にどのように AI エージェントを組み込むかを考えるきっかけになる、良い問題だと感じた。
- コード生成 → 設計 → issue~PR 連携 の順で段階的に取り組むことができたのがよい学びになりました。
- 非常にためになった。ただ、今回課題で与えられていた実装箇所を修正しても生成されるコードの品質があまり上がらなかった。

## 【参加チームへのフィードバック】

各チームには総合スコア、総合順位、各技術テーマのスコア、フィードバックコメントを記載した「評価シート」を渡した。

コンテストの振り返りと今後の技術力向上にお役立ていただきたい。

JISA技術コンテスト第4回 評価シート					
チームID	T99 サンプルチーム				
会社名	サンプル会社名				
総合順位	99位				
総合スコア	900点 (900点満点)				
チャート	金庫スコア				
	<p>AI (90)   Cloud (90)   Platform (90)   DevOps (90)   Security (90)   AI (90)</p>				
No.	技術テーマ	得点スコア	平均スコア <sup>※1</sup>	フィードバック	
1	クラウド	100P	91P	クラウドの活用が評価された。	
2	セキュリティ	100P	88P	セキュリティ対策が評価された。	
3	データベース	100P	87P	データベースの活用が評価された。	
4	アプリケーション	100P	91P	アプリケーションの活用が評価された。	
5	DevOps	100P	94P	DevOpsの活用が評価された。	
6	プラットフォーム	100P	97P	プラットフォームの活用が評価された。	
7	クラウドネイティブ	100P	83P	クラウドネイティブの活用が評価された。	
8	マイクロサービス	100P	79P	マイクロサービスの活用が評価された。	
9	AI/ML	100P	66P	AI/MLの活用が評価された。	

- 評価シートサンプル -

(技術コンテスト実行委員会 事務局)